

令和4年度後期始業式·後期生徒会認証式

後期始業式では、校長先生から「自立する力」についての話を聞きまし

た。自立するために必要な力は、右の図にあるように、次の3つです。

Ⅰつ目の「自分で考える力」は、一日の生活の中のあらゆる場面で鍛えていくことができる力です。この力を鍛えていけば、何も考えずただ言われたことをやるだけといった、いわゆる指示待ち人間ではなくなります。2年生の生



徒会総務委員に立候補した子たちは、立候補前に校長室に来て、立候補しようとした自分なりの思いを話してくれました。その姿を見て、「この子たちは自分で考える力を磨いている」と感心しました。世の中の進歩はすべてが突き詰めれば、ある一人の「自分で考える力」からスタートしています。これからの社会では、指示されたことをこなす役割は、AI にとってかわられるのです。タブレットを使っている君たちならば、与えられた指示を指示通りに行う力は、人間では太刀打ちできないことが、分かるのではないでしょうか?



2つ目は「仲間とかかわりあう力」です。自分なりに考えたことは、それを誰かに伝えることで、水面に小石を落とした時広がる波紋のように広がっていきます。さらには、皆がみんな同じ考えを持つことはあり得ないため、様々な考えがぶつかり合うことで、より良い考えを生み出すことができます。「人とのかかわりを一切経てば、人とのトラブルは一切起こらないのだから、そのほうが良いじゃないか?」時々そういう人がいます。でも、トラブルを解決していく過程で、相手の立場を考える力

を身に付けたり、自分がされて嫌な事は相手にもしてはダメだということを知ったりするのです。3年生は修学旅行の3日目に大阪班別研修をしました。土地勘のない大阪でしたが、悪戦苦闘しながらも、何とか無事にゴールにたどり着けました。いうまでもなく、そこには個人の力だけではなく、仲間とかかわりあう力が必要だったはずです。

3つ目は、「粘り強くやりきる力」です。夏休み、一生懸命自分なりに勉強しても、それがすぐに成果として現れたでしょうか?「あんなに勉強したのに」そう思った子たちは、案外多かったことでしょう。スポーツだってそうです。ちょっと練習したから、昨日できなかったことが急にできるようになることは、残念ながらありません。弱いチームが I か月やそこら頑張ったとしても、常勝チームになることなどないのも同じです。筋力は3日さぼるともとに戻るなんて言われることがありますが、3日さ



ぼった筋肉は、3日頑張ったからと言って元に戻らないところが厳しいところなのです。だからこそ、失敗しても

自分で勝手に 限界決めやがって

あきらめず、粘り強く努力する力が必要です。その時大切になるのは何か分かりますか?「もう無理だと自分で勝手に限界を決めない」ということです。このことこそが、粘り強くやりきる力に、なくてはならない大切な力なのです。 粘り強くやりきる力は、年齢に関係ありません。向上伸ノート達成冊数の

第1位の学級3C が72冊ですが、同率1位で1C も72冊です。さらには、全校学年1位は 1 年生の213冊です。さらには、ボランティア50回達成率90パーセント越えの学級は1D の93%なのです。「自分で考え」「仲間と関わり合い」「粘り強くやりきる」ことで、自立する力を育みましょう。

後期は、まずは合唱です。一人一人の力と学級としてのまとまり、さらにはたくさんの失敗とあきらめない気持ちを大切に、これが私たちの合唱だといえる歌声をつくり上げてほしいと思います。結果として学校が高まるそんな後期(3年生は90日、1・2年生は103日間)になることを願っています。 (酒井校長先生の話から抜粋)